

する。

R. crenata var. *yakushimensis* (ホソバイソノキ), *R. frangula*, *R. alnus* も構造的にはほぼ一致する。

10. *Rhamnus purshiana* 及びその近縁種

外部形状： 表面赤かっ色， かっ色で球円形， 球卵形， 倒卵形を呈し高さ 0.5~0.8 cm, 径 0.5~0.8 cm で他の種子の配列やルーベ視した構造はイソノキ群に近似する。

内部構造： 組織構造の配列及び粘液細胞やエモジン物質の存在， 細胞内含有物等はイソノキ群に近似するが， 内果皮の厚膜細胞層は 1~3 層の石細胞層と 3~4 層の繊維層よりなり， 石細胞は $5\sim28\times12\sim43\ \mu$ で周囲鋸歯状を呈す卵形， 四角形， 不整形で膜孔は明瞭である。

R. arguta, *R. californica* もほぼ近似した構造をもつ。

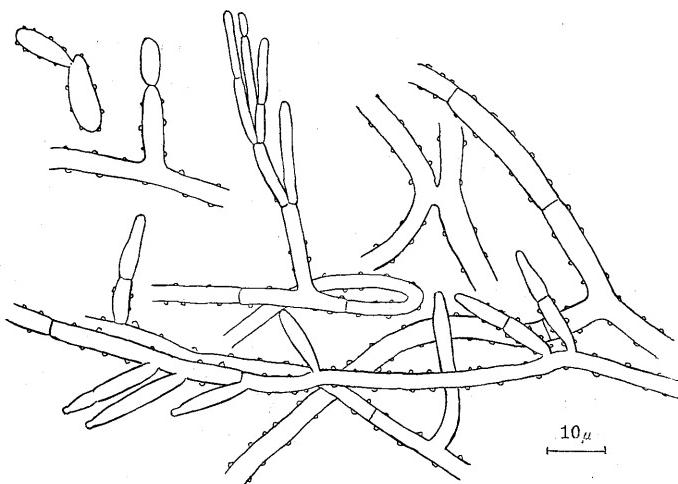
11. 漢葉鼠李子

外部形状 (Fig. 18), ルーベ視 (Fig. 18), 内部構造 (Fig. 19) を他種と比較し全てクロツバラ群に一致するものである。

○エダウチホコリタケモドキの分生子型 (小林義雄) Yosio KOBAYASI: Conidial stage of *Dendrosphaera eberhardtii* Pat. (Trichocomataceae)

西表島で清水大典氏により発見された本菌については本誌 50 卷 8 号 (1950) に発表済であるが， その後同君は本菌の分生子型確認用の生品を求めて 8 月に再び同島へ訪れた。そして月の半ばに最初の発見地附近で 1 個体を再発見し， 長い根状の地下部とも注意して堀り取り， これを水を含ませたミズスギで包み， 罐に入れ， 空気の流通を考慮して包装し， 8 月 19 日に同島より私宛に発送した。しかしここで故障が起ったか判らぬが， 私の手元に達したのは 2 週間後の 9 月 1 日であった。翌日予ねて用意して置いた麦芽汁寒天， およびチャペク培養基上に分離を試みた。資料の地下部， 柄， 頭部等の内部組織， および頭部表面より少量をかき取った。頭部表面の子嚢は未熟で胞子は殆ど形成されて居らなかったが， 万に 1 つの成熟胞子或は子嚢間の菌絲に望みをかけた。培種後 1 週間の所見では組織培養からは発芽の徵候が見られず， これは夏の高温と燥乾のために生氣を失ったものと思はれる。頭部表面からは細菌， 酵母， カビ類が発生した。これらのうちで明らかに別種のものと思はれるものを除き再分離を試みた， 10 月 24 日に植えかえ， 最後に残ったものは 3 種の不完全酵母であった。何れも問題の菌の分生子型というキメテにはならないが， 次の 1 種が種々の点で分生子型のうたがいがありそうに思はれるので記録を残すこととした。

Hyphae septate, sparingly branched, 2.5~4.5 μ thick, pale brown, finely verrucose. Conidial type—Aleuriosporae. Conidiophore simple or bearing



an apical penicillus of metulae; conidia ellipsoid or ovoid, $12.5-14 \times 5-5.5 \mu$, pale brown, smooth or finely verrucose.

前回の発表については日本の菌学界からは何の反響もなく、いささか独り角力の感があるが、カナダ、オタワの Malloch 博士からは早々に来信があり、不完全型の発表を心待ちにしている由であった。更に常識的に考えると *Penicilliopsis* や *Trichocoma* の不完全型と同様に *Penicillium* 型のものが出るかも知れぬが他の型が発見されても驚かないということも記してあった。その一部を紹介すると次の如くである。

I am very interested to know what type of conidia you will find with *Dendrosphaera*. I would not be surprised if it produced neither a *Penicillium* nor an *Aspergillus* state, but something quite different instead.

Although I agree that genera such as *Chadefaudiella*, *Penicilliopsis*, *Trichocoma*, *Dendrosphaera*, *Onygena*, *Batistia*, etc. appear to be very similar, I believe that the production of such large stipitate ascocarpus is an example of convergent evolution encompassing several unrelated families.

繰り返えすが、このカビがエダウチホコリタケモドキの分生子型であるというキメテはない。しかし菌絲に細疣があり、褐色を帯びていることは共通の特徴であり、私は望みをかけている。百パーセントの確信も持たずに結果を発表するのは心苦しいのであるが、漸く老境に入った私には、次の調査がいつ可能か、心もとないままに、今迄の経過を記して、清水君の苦労に報いることとした。